



学園祭
運営委員会

東京都市大学
横浜祭



東京都市大学横浜祭における 環境配慮について

東京都市大学
ISO学生委員会 児島未来
横浜祭実行委員会 三栖悠正

1. 横浜キャンパスについて
2. 東京都市大学 横浜祭について
3. ISO学生委員会について
4. 横浜祭における環境配慮について

東京都市大学 横浜キャンパス



所在地：神奈川県横浜市都筑区

開設：1997年

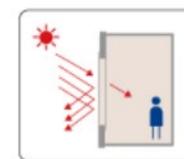
ISO14001の認証を日本の大学として初めて取得

東京都市大学 横浜キャンパス



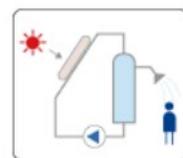
【氷蓄熱式ヒートポンプエアコン】

深夜電力を利用して夏季は蓄熱槽に水を蓄え、その冷たさを冷房運転、冬季はお湯を蓄え、その暖かさを暖房運転に役立っています。



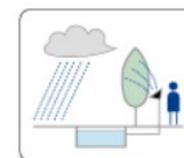
【ペアガラス／Low-Eガラス】

外気と温度差が大きい南と北の窓に、二重構造のペアガラスや、特殊コーティングして断熱効果の高いLow-Eガラスを採用。空調効果を高めます。



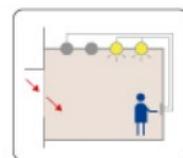
【ソーラーシステム】

体育館の屋根にはソーラーパネルを設置。太陽エネルギーを利用して水を温め、体育館の温水シャワーなどに活用しています。



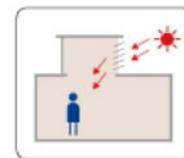
【雨水利用】

雨水を地下の雨水槽に集め、樹木への散水に利用。夏季には体育館の屋根にポンプアップし、散水で温度を下げる有効利用を図っています。



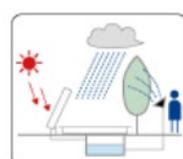
【照明計画の工夫】

建物内の照明は普通に使っても無駄が多くなります。そこで、自然光を採り入れ、照明スイッチを系統化し、エネルギー節約を図っています。



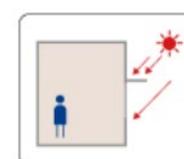
【ハイサイド・ライト】

建物内部に自然環境を取り入れ、採光や通気を良くすることで電灯照明や空調の無駄を減らし、明るく心地良い空間を創出しています。



【ビオトープ】

本学部と企業が共同開発したクールバレットシステムを用いたビオトープを設置し(エネルギーに太陽光を用いるなど)、ヒートアイランド対策と共に、実践的な学習の場となっています。



【庇(ひさし)／袖壁】

直射日光の遮蔽効果は窓の外側を工夫することで大幅に高められます。各建物に庇や袖壁を設置し、夏季の冷房使用量を低く抑えています。

東京都市大学 横浜キャンパス



2023年に再エネ設備を導入 環境教育への活用がなされている

横浜キャンパスの学園祭 横浜祭

開催時期：毎年9月中旬開催

来場数：約6000人

環境キャンパスとして第1回から環境配慮策を実施





教室展示・体験企画

YFA企画、課外活動企画など

全43企画・団体

飲食模擬店

焼きそば、ワッフルなど

全16団体

体育館ステージ企画

芸人(お笑い芸人)ステージ、吹奏楽ステージなど

全15ステージ

一部模擬店ではキャッシュレス決済を導入

課外活動団体の一員、地域の一員として存在を期待される団体へ



地域団体



地元企業

多様なステークホルダーとの連携



近隣大学



学生団体

地域密着型の活動



6地域 10イベントに参加



地元中小企業との連携

学生団体との連携

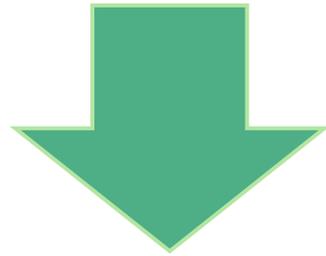


運営補助を依頼



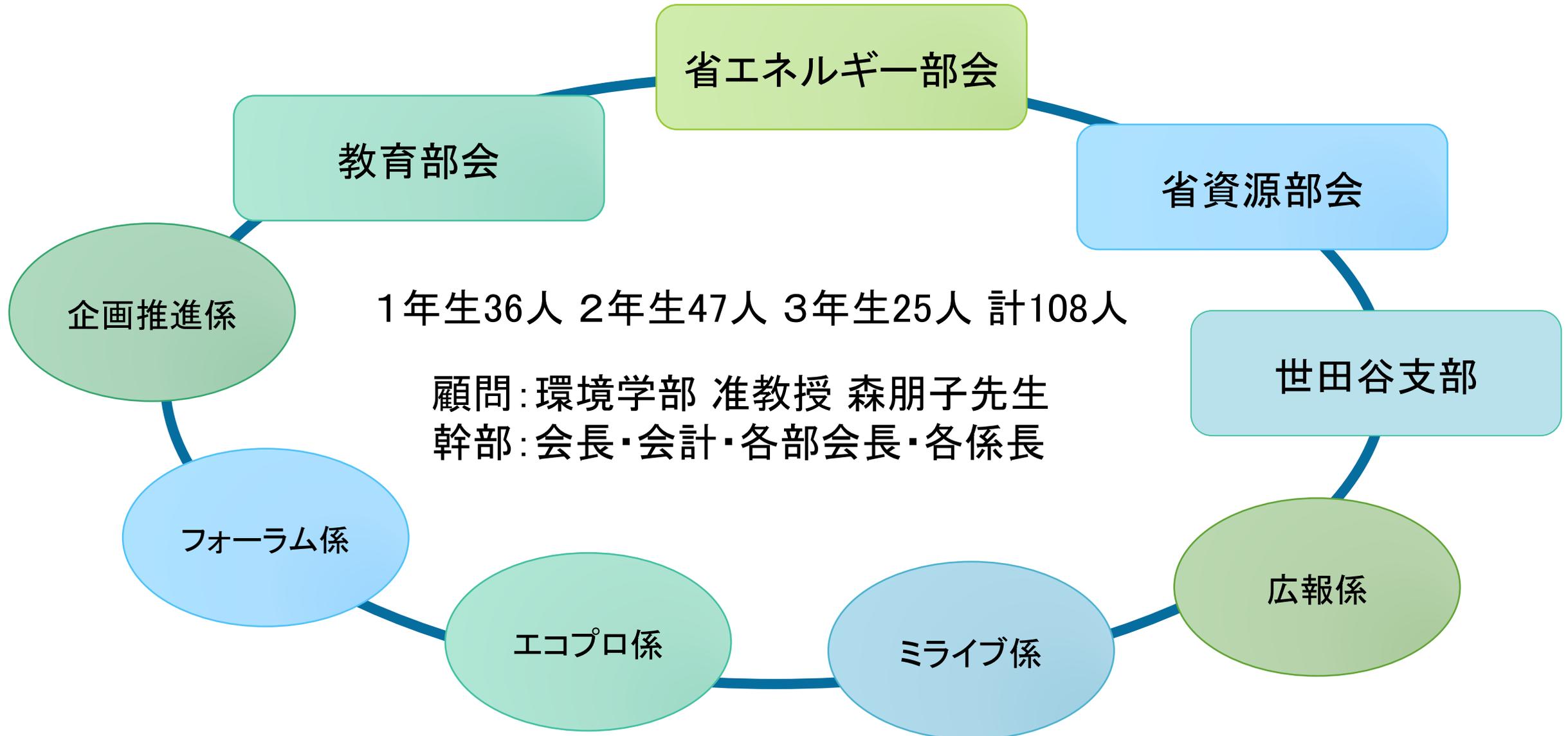
運営への協力

ISO学生委員会とは



横浜キャンパスのISO14001認証を保持するため環境啓発活動を学内外で行う学生団体のこと

1998年に横浜キャンパスが日本の教育機関で初めてISO14001の認証を取得したことから、ISO学生委員会を創設



基本理念

東京都市大学横浜キャンパスは、地球環境保全が人類全体の最重要課題の一つであることを認識するとともに、**教育機関として初めてISO14001の認証を取得し、以来現在まで継続して登録してきたことに誇りを持ち、**キャンパス内のすべての活動が環境と調和するよう配慮し、広く地球的視野に立って、**横浜キャンパス内のすべての教職員・学生及び常駐する関連会社の職員（以下「教職員・学生等」という）**が一致協力して、環境の保全と改善に努め、21世紀の社会の持続可能な発展に貢献する。

基本方針

1. 持続可能な社会の実現に貢献する学生を育成するため、**環境マネジメントシステムを主要な教育テーマとして活用し、**地球環境・地域環境保全のための教育と活動を能動的に展開して、社会への貢献を図る。このため、自ら研究と教育を進めることはもとより、地域・行政のプログラムに積極的に参画し、**教職員・学生が自主的に参加することを支援するとともに、**研究・教育の成果を公表して、持続可能な社会への貢献を図る。
2. 環境方針を達成するため、環境目標を設定し、横浜キャンパス内のすべての教職員・学生等が一致して、環境目標の達成を図る。
3. 横浜キャンパス内のあらゆる活動にかかわる環境側面を常に認識し、環境に対する影響を評価し、環境汚染を予防するとともに、省資源・省エネルギー・廃棄物削減・グリーン購入に積極的に取り組むことにより、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを推進する。その際、**SDGs**が掲げる目標達成に寄与すべく、資源循環、気候変動の緩和と適応、並びに生物多様性の保全について常に考慮する。
4. 横浜キャンパス内のすべての活動にかかわる環境関連法規、規制、協定等を遵守し、**地球温暖化防止及びオゾン層の保全などの環境改善事項を考慮した自主基準**を設ける。
5. 環境監査を実施して、環境マネジメントシステムをレビューし、継続的な改善を図る。

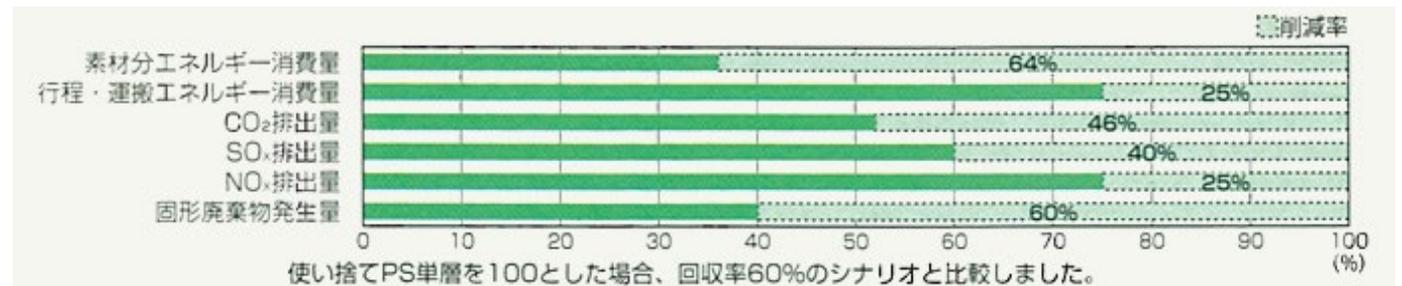
資源ステーション

- 資源ステーション運営をISO学生委員会が担当
- 学内に設置された4か所の資源ステーションにおいて、適切にごみを捨てられるよう来場者・関係者の補助を行う
- 屋外に設置されたメインの資源ステーションではごみを13品目に分類



リ・リパック

- リ・リパックを用いて食品提供を実施
- リ・リパックとは
株式会社ヨコタ東北が生産する、容器の大部分がリサイクル可能な食品用容器
横浜キャンパスの学生食堂での導入をきっかけに横浜祭にも導入



出典:<https://www.yokota-co.co.jp/spirit/>

YFAの環境配慮活動

- テント下に敷く養生シートやテント等の定期的なメンテナンスを学生が実施
- 備品管理を徹底し、消耗品等の買い過ぎ、無駄使いを抑制
- 学祭で発生した廃棄物の徹底した分別の実施 装飾等
- パンフレットの電子化

今後の方針

環境問題に関連した企画の充実

